

日本語絵本における韓国語翻訳の傾向

金 銀 英

Current trends in Korean translation of Japanese picture books

by
KIM Eunyong

要旨

日本語の韓国語訳に関する研究は限られたジャンルでしか行われていない。しかし、幅広いジャンルの日本語原作作品が数多く韓国で紹介されている現状を踏まえると翻訳全般に関する研究やジャンル別の翻訳の特徴や留意点に関する研究が必要である。とりわけ絵本は、その主たる対象が言語形成期の子どもである。韓国語訳された日本語原作絵本の新作が毎月一定数書店に並ぶ現状からも絵本の翻訳に関する考察は喫緊の課題と言っても過言ではない。本稿では近年出版された日本語原作絵本と韓国語訳版の本文を比較対照し、分析を試みた。原作と韓国語訳版の相違を確認するとともに翻訳版の韓国語が自然であるか、原作の内容伝達が充実であるかを確認した。そして用例を「正しい訳」と「誤訳」に大きく分け、最も顕著な例を挙げながら一つ一つ分析を行った。その結果、今回調査対象にした作品は概ね自然な韓国語に訳されていたが、中には明らかな誤訳や、翻訳者の解釈を加えることで作品全体の印象が変わる翻訳もあった。これら用例をもとに、絵本翻訳研究の手始めの作業として、日本語絵本の韓国語訳における傾向を考察した。翻訳において小説が語彙・文法などの言語間の差異や文化の差異に注意しながら翻訳する必要があるのに対し、絵本は挿絵というもう一つの伝達手段を有する点や登場する動物や植物、無生物が擬人化しやすい点など絵本ならではの特徴を念頭に置いて翻訳する必要がある。

キーワード：外国の絵本、日本語原作絵本、絵本の翻訳、誤訳、韓国語翻訳

1. はじめに

日本語原作の作品を韓国の書店で目にするのは難しいことではない。日本語原作の小説を始

めエッセー・経済書・コミック・自己啓発本など幅広いジャンルの韓国語訳版が出版されている。韓国で出版するためには当然翻訳作業を経なければならないが、それに伴う翻訳に関する研究は管見では小説に限られている。

絵本も、多くの日本語原作作品が韓国語に翻訳され本屋に並んでいる。韓国大手書店「キョボムンゴ（教保文庫、교보문고）」のオンラインショップでも、絵本のカテゴリを「世界名作絵本」、「国内創作絵本」、「日本絵本」、「英米絵本」、「ヨーロッパ絵本」、「その他の国の絵本」、「昔話」に分けていることから、日本語原作絵本の韓国語訳版が韓国絵本市場で一つの柱を担っていることが分かる^{注1)}。しかし、他ジャンル同様、絵本の翻訳研究はほとんどされておらず、絵本の主な対象者が言語形成期の子どもであることを鑑みると、日本語絵本の韓国語翻訳研究を進める必要がある。

キョボムンゴで販売する新作日本絵本の過去5年間の推移を見ると、月平均10.73作品が出版されている^{注2)}。もちろんこれらは韓国訳されたものであり、最も多く出版されたのは2015年10月の69作品だった。このように需要と供給が多い日本語原作絵本だが翻訳の質を測る基準はない。

また日本と韓国は同じ漢字文化圏に属しており、隣国であるため生活様式が他国と比べ類似している。そのため日本語と韓国語以外の他言語間の翻訳、韓国語と日本語以外の他言語間の翻訳では見られない特徴が予想できることから、日韓両言語間の絵本の翻訳研究は意義がある。

これらのことから本稿は絵本翻訳に関する基礎的資料の提示とこれからの研究方法を提示することを目標に、手始めの作業として日本語原作絵本の韓国語訳の傾向を考察する。

2. 先行研究

本稿で取り上げる絵本翻訳研究の先行研究を述べる前に、絵本全般に関する研究の現状を김지은・권희정（キム ジウン、クォン ヒジョン）（2009）から垣間見ることができる^{注3)}。김지은・권희정（2009）は2000年以降韓国でなされた絵本関連研究131本を対象に研究傾向を分類している。論文テーマ別に分類すると絵本関連活動（45.8%）、絵本の内容分析（16.8%）、絵本指導の類型（15.3%）、その他の順だった。また発達領域別に分類すると言語発達（30.6%）がもっとも多く、その他（25.6%）、創意性の発達（14.4%）、社会性の発達（11.9%）認知の発達（10.6%）、情緒発達（5.6%）順に続く。また研究対象別の分類では幼児（79.4%）、絵本（16.2%）、教師（3.7%）、保護者（0.7%）順だった。この論文は韓国における絵本関連研究が絵本そのものの研究より絵本を用いる活動や絵本を取り囲む幼児や保護者、保育者に焦点が当てられていることを報告している。

日韓の絵本に関する研究はその数が大変少ないが、その多くは絵本の本文以外の箇所に関心が当てられている。例えば、오연주・김금희（オ ヨンジュ、キム クムヒ）（2011）は韓国語原作絵本の日本語訳版を対象に表紙の題名、書籍情報、判型に関する研究を行っている^{注4)}。翻訳作業を経る過程で生じる様々な変化について比較しているが、その考察は装丁に焦点が当てられており絵本本文の比較はなされていない。他に大竹（2004）は、異文化紹介の翻訳を主題にした報告である^{注5)}。韓国語原作絵本を通じて韓国の家族の模様、ホランイ（虎）など文化的シンボルの紹介をするために、どのような工夫をこらして日本語訳したのか報告している。例えば、「할머니【ハルモニ】」（【 】内は、韓国語の音をカタカナ表記したもの）を「お祖母さん」と訳さず韓国音の「ハルモニ」のまま日本語訳していることや、虎も韓国音の「ホランイ」のまま日本語訳することで、韓国語原作絵本を通じて韓国文化を紹介した例を挙げている。この論文も作品全体ではなく、単語レベルに留まっている。

本稿で研究対象とする絵本原作と翻訳版の本文の比較研究に近似した論文としては古市・西崎（2009）が唯一と言えよう^{注6)}。日英の絵本を対象とし、絵本の翻訳に影響する要因に焦点を当てた研究である。具体的には翻訳者の個人的な感性、作風ではなく、普遍的に翻訳に影響を与える要因を「読み取り分析」で探ろうとした点に特徴がある^{注7)}。合計64題目、128冊の絵本から原作と異なる箇所を16項目に分類した（表1）。

表1 古市・西崎（2009）による翻訳に影響する要因

	項目	冊		項目	冊
1	絵本名の変更・副題の挿入	24	9	文字の違い	3
2	生活習慣による違い	15	10	一つの単語が多様な言い回しになる	2
3	オノマトペの使用が多い日本語	13	11	対話形式か、語り口か	2
4	人名・地名の変更	10	12	遊びの名前の変更	2
5	状況説明の加筆	8	13	スペース上の省略	2
6	言葉のリズムに合わせた	6	14	意味をよく伝えるために表紙の絵の変更	2
7	製本の方法	3	15	道徳的な意味合いの強調	1
8	時代の差	3	16	死に対する考え方の影響	1

本稿は、古市・西崎（2009）を参考に、日本語原作絵本の韓国語訳の研究を進める。絵本本文に関する研究としては管見ではこの論文が唯一であり、筆者が目指す比較研究に近い。また絵本翻訳研究として考察した項目が広範囲に亘っていることも理由として挙げられる。ただ考察の対象が本文のみならず製本にまで及んでいることから、本稿では（表1）から本文以外の項目一部を除外して考察を行う。

3. 用例の収集

比較対照に用いる絵本は、異なる翻訳者によるもの、現在書店で流通し日本語原作と韓国語版が入手可能な作品に絞った。また現在の傾向を調べるために、韓国語訳版が2018年に出版された作品から用例を収集した^{注8)}。その対象作品の原題と原作者、韓国語訳版題名と翻訳者は以下の通りである(表2)。

なお、『ノラネコぐんだん アイスのくに』のような長い題名は引用の際、表の下線部のみで示す。

表2 対照資料一覧

	原作題名	初版 出版 年度	作者	韓国語訳版題名	初版 出版 年度	翻訳者
1	おしりぴより	2017	酒巻 恵	엉덩이 날씨	2018	장현주
2	おふとんさん	2017	コンドウアキ	따뜻한 내 친구, 이불이	2018	김언수
3	トマトさん	2006	田中清代	토마토야, 왜 그래?	2018	엄혜숙
4	ねこのき	1996	さく 長田弘 え 大橋歩	고양이 나무	2018	황진희
5	ノラネコぐんだん <u>アイス</u> のくに	2017	工藤ノリコ	아이스크림이 풍풍	2018	윤수정
6	ピカピカヒーロー <u>せっけんくん</u>	2017	うえたに夫婦	최강 청결 히어로 비누맨	2018	전예원
7	ピヨピヨ はじめての <u>キャンプ</u>	2014	工藤ノリコ	삐악삐악 첫 캠핑	2018	한라경
8	みずたまり	2016	殿内真帆	비가 그치면...	2018	김숙
9	やさいのがっこう <u>びーまんくん</u> ゆめをみる	2017	なかや みわ	채소 학교와 잠꾸러기 피망	2018	강방화
10	わたしの <u>じてんしゃ</u>	2017	さく ますだ みり え ひらさわ いっぺい	나의 자전거	2018	이소담

日韓両言語間でどのような翻訳法で絵本翻訳がなされているのかを探るため(表2)の資料から用例を収集した。用例収集のための比較手順は次の通りである。

- ① 原作の通読 — 原作の内容の把握と翻訳文を予想
- ② 原作と韓国語版の比較対照 — 原文と韓国語訳文を左右に置き、相違を確認
- ③ 韓国語版の通読 — 韓国語そのものの違和感の有無、原作の内容と相違点の再確認

比較の例として例1を挙げる。なお、例は次のように示す。

【 】 原作の作品名と原作におけるページ及び行、(原)：日本語原作、(訳)：韓国語訳、
〔 〕：韓国語訳を筆者が日本語訳したもの、(逐)：筆者による日本語の韓国語逐語訳、
／：改行

例1 『『ねこのき』、13 - 1 ~ 3』

原) つぎのひの あさ／	訳) 다음 날 아침, [次の日の朝]／
おばあさんのいえのまえに／	할머니 집 앞에 [おばあさんの家の前に]／
ちいさな おんなのこがたっています	작은 여자아이가 서 있었습니다.
た。／	[小さな女の子が立っていました]／

用例収集結果、例1のように正しく翻訳された例もあったが、少数ではあるが誤訳もあった。

用例収集の前は、韓国語と日本語は言語上の類似点が多いだけでなく、同じ漢字文化圏に属していることから日韓両言語間の翻訳では英語と異なり(表1)のような様々な工夫は必要ないと予測した。また、商品として流通している作品であることから今回の比較対象からは誤訳はないであろうと予測した。さらに絵本の文章は他ジャンルと比べ一冊における全体文字数が少なく、文章も簡潔であることも誤訳が生じにくいだらうと予測した理由である。しかし用例収集の結果、少数ではあるが明らかな誤訳があったため、本稿では正しく翻訳された例と誤訳を分けて考察する。

4. 正しい訳

本稿では韓国語の文法上に誤りがなく原作の内容が十分に伝わる訳を「正しい訳」とする。原作の一部が省略された場合も、内容伝達に支障がなければ「正しい訳」にした。

例2 『『ねこのき』、12 - 1 ~ 3』

原) おばあさんは／	訳) 할머니는 뜰에 나가 [おばあさんは庭に
よるのにわにでて／	出て]／

そらのほしを かぞえました。／

반하늘의 별을 세어 보았습니다.〔夜空
の星を数えました〕／

逐) 할머니는〔おばあさんは〕

밤의 뜰에 나가〔夜の庭に出て〕

하늘의 별을 셧습니다.〔空の星を数えま
した〕

例2は3行にわたる原文が2行になっており、語順の変化も見られる。絵本翻訳は紙面における文字の配置、書体のイメージ、改行箇所もできるだけ原作に似せようとする特徴が見られた。これが小説や他のジャンルの翻訳と大きく異なる絵本ならではの翻訳法と言える。挿絵は原作の挿絵をそのまま移すことができるが、文に関しても原作にできるだけ似せようとする傾向があった。このような絵本翻訳において例2の行数や語順の変化は大きい変化と言える。例1は語順も改行箇所も原文と全く同じ逐語訳であるが、例2を例1のように逐語訳すると「よるのにわ」は「밤 (의) 뜰」になる。大人向けの表現であり、幼児には少々不向きな感がある。「夜 (밤)」を後ろに移動させ「하늘 (空)」に合わせることで幼児への不向き感が薄れ、作品を通しての文体と馴染むと考えられる。語順を変え、行数を減らす変化を加えることで自然な韓国語表現になり、原作の内容も過不足なく伝える訳文となった。このような翻訳を正しい訳と分類し、今回の用例収集で見られた正しい訳にするための工夫について考察する。

4・1 体言止めにおける工夫

例2の置き換えは体言止めの表現で多く見られる。

例3 〔『おしりびより』、3-3~4〕

原)「いってらっしゃい。きょうは おしり
びよりだから、／
かさを もって行くのよ。おやつもね」
と、おかあさん。／

訳) “잘 다녀와. 오늘은 엉덩이 날씨니까
〔“いってらっしゃい。今日はおしり日和
だから〕／
우산을 가져가렴. 여기 간식도 챙기고”
〔傘を持って行きなさい。おやつも忘れ
ずに〕〕／
엄마가 말했습니다.
〔お母さんが言いました〕／

逐) “잘 다녀와 . 오늘은 영당이 날씨니까
〔“いってらっしゃい。今日はおしり日和
だから、
우산을 가져가렴 . 간식도” 라는 .엄마.
〔傘を持って行ってね。おやつも”と、
お母さん。〕

原作は体言止めになっているが、韓国語訳はもう一行増やし、文が用言で終わるようにしている。体言止めは韓国語にもある表現法であるが、日本語ほど自由度が高くなく、例3を逐語訳すると韓国語として大変不自然である。そのためか原作の体言止めをそのまま翻訳した例は今回の収集では一例も見当たらなかった。

4・2 固有名詞の置き換え

『アイスのに』のペンギン「ペンペン」はそのまま「펭펭【ペンペン】」、『おしりびより』の犬「モモ」はそのまま「모모【モモ】」であることに見られるように、固有名詞は原作に寄せる翻訳が多かった。固有名詞を変える例は人名の場合に見られ、日本名から韓国名に変えた例は『おしりびより』の「けんくん」が「은우【ウヌ】」に変わっていた。同作の犬「モモ」は韓国語でも「모모」のままであるが、人である「けんくん」は韓国語名に変わり、その変化も韓国名を原作の「けん」の音に寄せるなどの工夫は見られず、韓国に実在する男児の名前にする変化だった。すべての人名が韓国式に変わるのではなく『みずたまり』の「ふくちゃん」は韓国訳版でも「흥우【フク】」のままだった。「フク」という名前が「은우【ウヌ】」のように韓国に実在しそうな名前でもなく、音の響きが韓国語として馴染みがあるものでもないが、原作と同じ名前にしている。今回の調査は10作品とサンプル数が少ないため、固有名詞の置き換えが生じる基準を明らかにすることはできなかった。

4・3 語彙の差異による省略

例4 『『キャンプ』、22 - 3 及び 23 - 1』

原) いちばんぼしだ／

さようなら、また あそぼうね!／

訳) 별이다 [星だ]／

안녕, 다음에 또 놀자!

〔さようなら、今度また遊ぼう!〕／

韓国語には「一番星」に当たる語彙がなく、「夕方、最初に見える星」や「日が暮れた後に見える金星」などの説明が必要になる。該当ページの挿絵は日が暮れる頃であることが分か

るように表現されており、次のページをめくるとさらに日が落ちた頃を描写する絵とともに「さようなら」と別れの言葉が続くので、読者にもここでの「별(星)」はどんな星かが十分に推測できる。原作の語彙に捕らわれず、省略することで自然な韓国語になった例である。

4・4 説明のための追加

例5 『『おしりびより』、1-1~2』

原)「おしりびよりって なんだろう？」と、
けんくんは おもいました。/
でも、いぬのモモが さんぽにいこうと
おおさわぎしているので、/

訳) ‘영딩이 날씨라니, 뭐지?’
[‘おしり日和って、何だろう’] /
은우가 고개를 기울이고 있을 때였습
니다.
[ウヌが首を傾げていたそのときでし
た。] /
강아지 모모가 산책을 나가자고 짹짹거
리며 소란을 피웠습니다.
[犬のモモが散歩に行こうと、クンクン
と騒ぎを起こしました] /
逐) ‘영딩이 날씨라니 뭐지?’ 하고 은우는
생각했습니다.
[‘おしりびよりって なんだろう?’
と、ウヌは思いました。]
하지만 강아지 모모가 산책을 가가고 소
란을 피워서,
[しかし、いぬのモモが散歩に行こうと
騒ぐので、]

例5は原作にはない言葉を補って状況を説明した例である。逐語訳にしても意味は通じるが、言葉を補うことで子どもたちに「은우【ウヌ】(韓国語訳版における「けんくん」)」の好奇心をよりはっきり伝えることができた。このページの絵はけんくんがモモと散歩に出かけるために玄関に立っている内容であり、「은우【ウヌ】」が好奇心を抱いていることを表現していない。

この本は「おしりびより」という日本人にとっても聞きなれない言葉が題名である絵本で、本文も「ほんじつは 10ねんぶりの たいへんすばらしい おしりびよりです」と「おしりびより」という言葉の定義づけがないまま始まる。「고개를 기울이다 [首を傾げる]」と言葉

を足すことは状況を限定することにつながるが、ここで「은우【ウヌ】」が「영덩이 날씨 [おしりびより]」について好奇心を持っていると限定しても読者である子どもの想像する力を妨げるものではない。

5. 誤訳

前述通り、今回の調査対象にした作品の中に少数ではあるが誤訳があった。10冊という限られた比較対象からも確認できる誤訳について、本稿では正しい訳以上に詳しく考察する必要があると判断し、この章で誤訳の様相とその原因を述べる。

本稿が参考にした先行論文である古市・西崎（2009）は、誤訳に関する言及がない。絵本の誤訳に関する先行論文がないため本稿では、本文の誤訳考察という点で共通する拙稿を参考にする。金（2004）は、先行研究である油谷（2002）及び油谷（2003）をもとに2000年以降出版された日本語小説の韓国語訳版を比較対照した研究で、小説における誤訳をパターンごとに分類したものである^{注9) 注10) 注11)}。比較対象にした作品からは油谷が取り上げた誤訳パターンの一部と新しい誤訳のパターンが見られた。その結果は次の通りである（表3）。

表3 日本語原作小説の韓国語訳版における誤訳のパターン

項目	内容
1-A 語彙	韓国語に当てはめることのできない日本語翻訳における誤訳
1-B 語彙	韓国語の多義語を用いることで、原作の伝達に誤解が生じる誤訳
2 慣用句・熟語	日本語の慣用句、熟語に関する知識不十分に起因する誤訳
3 文法	使役、受け身、やりもらい表現における誤訳
4 複合	文化的差異による誤訳
5-A その他 語彙	日本語固有名詞の誤読
5-B その他 文	文脈の取り違いによる誤訳

誤訳研究は、実在する誤訳例を収集し分類・分析行うのが主流である。本稿においても今回収集できた誤訳の実例を提示し誤訳の原因を考察する。

5・1 同音異義語に起因する誤訳

例6

『みずたまり』、2-1~3]

原) 「ながみえるの?」 / 訳) “뭐가 보이는데?” [“何が見えるの?”] /
 と ふくちゃんは たずねました。 / 후쿠가 물었어요. [フクが尋ねました] /
 すると、みずたまりは こたえました。 /

그러자 물웅덩이가 대답했어요
〔すると水たまりが答えました。〕／

【『みずたまり』、3-1~2】

原) つぎのひ、ふくちゃんは／
みずたまりの　ところへ　いって　たず
ねました。／
訳) 다음날, 후쿠는 물웅덩이를 찾아갔어요
〔次の日、フクは水たまりを訪ねました〕／

【『みずたまり』、4-1】

原) つぎのひも、ふくちゃんは　みずたまり　に　たずねました。／
訳) 그 다음 날도 후쿠는 물웅덩이로 찾아갔
어요.
〔その次の日もフクは水たまりを訪ねま
した〕／

(表3)の「1語彙」に該当する誤訳である。絵本の特徴上、ほとんどの文章はひらがな表記になる。「尋ねる」と「訪ねる」が区別付きにくく、助詞や前後文脈で「訪ねる」と「尋ねる」を判断する必要がある。ところで、絵本は同じフレーズを繰り返すという特徴を有する。『みずたまり』では「みずたまりに　たずねました」がその繰り返しのフレーズに当たるが、【2-1~3】のみ「尋ねる／묻다」にして、それ以降は最後まで「訪ねる／찾다」と翻訳している。「みずたまりにたずねる」と助詞「に」と記しているにもかかわらず「訪ねる」と翻訳したのは明らかに初歩的な誤訳である。厳(2009)でも取り上げているが、同音異義語を取り違える誤訳は語学学習者によく見られる誤訳である^{注12)}。

5・2 翻訳者の語学力に起因する誤訳

例7

【『おふとんさん』、13-挿絵】

原) きょうだけだよ／
訳) 오늘까지야〔今日までだよ〕／

【『おふとんさん』、18-2】

原) 「きょうだけだよ」って　いわれたから／
訳) “오늘까지야”라고 엄마가 말해 버려서
〔“今日までだよ”ってお母さんが言っ
ちゃたから〕／

『おふとんさん』はクマが古い靴を捨てに行き、靴と引き換えに汚い布団を連れてくる一日目とその翌日の二日間にわたる物語である。クマの母親は汚い布団に帰ってもらいたいが「今日だけ」と一晩は許す。日本語「だけ」は韓国語「만【マン】」で対応でき、意味も同じである。対応する「만【マン】」を差し置いて「까지【ッカジ】[まで]」に置き換える語学上の理由は見当たらない。この誤訳は日韓両言語の相違や文化の相違によるものではなく、翻訳者個人の語学力に起因するものと考えられる。

6. 先行研究との比較

用例の分類に参考とした先行研究と今回用例収集の結果を比較する。

6・1 正しい訳の先行研究との比較

古市・西崎（2009）の分類である（表1）の中から本文翻訳と関わる項目と、今回の収集結果を比較すると次のようにまとめられる（表4）。

表4 古市・西崎（2009）との比較

	項目	比較結果		項目	比較結果
1	絵本名の変更・副題の挿入	対象外	9	文字の違い	対象外
2	生活習慣による違い	該当なし	10	一つの単語が多様な言い回しになる	該当なし
3	オノマトペの使用が多い日本語	該当なし	11	対話形式か、語り口か	該当なし
4	人名・地名の変更	該当あり	12	遊びの名前の変更	該当なし
5	状況説明の加筆	該当なし	13	スペース上の省略	該当なし
6	言葉のリズムに合わせた	該当なし	14	意味をよく伝えるために表紙の絵の変更	対象外
7	製本の方法	対象外	15	道徳的な意味合いの強調	該当なし
8	時代の差	該当なし	16	死に対する考え方の影響	該当なし

今回の収集した用例と古市・西崎（2009）の項目が一致するのは「4. 人名・地名の変更」のみだった。「4・2 固有名詞の置き換え」で述べた人名の変化である。このように一致する項目が少なかった理由は、日英と日韓という言語間の類似程度に依るものと考えられる。用例収集前から言語上の類似点や同じ漢字文化圏に属している点、相互文化理解度が高い点から、（表1）のような工夫は不必要だと予想し、結果も予想通りだった。今回の比較対象に昔話や伝統的な題材を取り上げる絵本が含まれていたなら、（表4）とは異なる結果になっただろう。例えば「2. 生活習慣による違い」であるが、今回調査対象に絵本から該当する例はなかった。もし昔話や伝統文化の要素を含む作品が調査対象に入っていれば、説明のための加筆や言い換

え等の翻訳上の工夫が見られる用例が見つかっただろう。しかし近年韓国で出版される日本語原作絵本の大半が現代を背景にするか、擬人化した動物や植物が登場するものであるため、比較対象の多様性を確保するのがなかなか難しい。

なお、「4・4 説明のための追加」の例5が(表4)の「5. 状況説明の加筆」に類似しているが、古市・西崎の「加筆」は原本文の翻訳だけでは理解できない文化的な要素を加筆したのに比べ、本稿の「追加」は翻訳者の翻訳意図による追加である点で異なる。この変化は翻訳者の翻訳工夫によるもので、日韓両言語間以外の翻訳でも見られるものと思われるが古市・西崎(2009)では言及がなかった。

6・2 誤訳の先行研究との比較

次に拙稿金(2004)を元に今回収集で得られた誤訳を表にまとめると次の通りになる(表5)。

表5 金(2004)との比較

項目	内容	比較結果
1-A 語彙	韓国に当てはめることのできない日本語翻訳における誤訳	該当なし
1-B 語彙	韓国語の多義語を用いることで、原作の伝達に誤解が生じうる誤訳	該当あり
2 慣用句・熟語	日本語の慣用句、熟語に関する知識不十分に起因する誤訳	該当なし
3 文法	使役、受け身、やりもらい表現	該当なし
4 複合	文化的差異による誤訳	該当なし
5-A その他 語彙	日本語固有名詞の誤読	該当なし
5-B その他 文	文脈の取り違いによる誤訳	該当なし

金(2004)と今回の収集結果を比較すると「1-B 語彙」と「5・1 同音異義語に起因する誤訳」が一致した。(表3)の「1-B」は韓国語の多義語が誤解を招くものだったのに対して、例6は日本語の同音異義である点で完全な一致ではないが、性質は同じものと言える。

金(2004)では見られなかった誤訳は「5・2 翻訳者の語学力に起因する誤訳」があった。

(表5)のような結果になった原因は小説の翻訳と絵本の翻訳という、ジャンルの差によるものと考えられる。小説に比べ絵本は文構造が簡単で、長さも短い。そのため言語間の差異による誤訳も小説よりは生じにくい。しかし同音異義語や翻訳者の語学力による誤訳が確認できたことから、翻訳者たちのより一層の注意を求めたい。

7. 絵本の特徴と翻訳

今回の用例収集で先行研究では取り上げていない、絵本の特徴と関わる翻訳例が散見された。小説は作家が必要とする長さの文で叙述ができるのに対し、絵本は文字数や表現において制限がある。また文字数が少ないことは、翻訳文の些細な変更が作品全体の雰囲気が大きく変わる原因にもなる。今回収集できた絵本の特徴と関わる翻訳について考察する。

7・1 挿絵の役割

例8 『『せっけんくん』、3-2』

原) よごれが あばれているかも…／

訳) 지저분한 ‘오염단’ 들이 손바닥 마을에
서

[汚い ‘汚染軍団’ たちが手のひら村で]／

날뛰고 있을지도 몰라요.

[暴れているかもしれません]／

逐) ‘오염단’ 들이 날뛰고 있을지도…

[‘よごれ軍団’ が暴れているかも…]

該当する見開きのページに文章は「よごれが あばれているかも…」だけで、挿絵で街に見立てた手の平に「よごれ」が暴れるさまを表現している。翻訳者が言葉を足さずに原作と同じ分量の訳文にしても絵が「手のひらの村で」汚れが暴れていることを説明している。つまり例8は過剰な翻訳と言える。絵本は文章以外に挿絵というもう一つの伝達手段を有する。翻訳者はこのような絵本の特徴を考慮し翻訳する必要があると言えよう。

7・2 登場人物の擬人化

例9

『『おふとんさん』、7-1~3』

原) うちのふとんに?／

訳) 이불로 쓰겠다고?

だめだめ そんなに よごれてるの。／

[布団として使うって?]／

かえってもらいなさい。／

안 돼, 안 돼. 너무 더럽잖니.

[ダメ、ダメ。汚すぎるでしょう]／

다시 돌려놓고 와.

[元に戻してきなさい]／

『おふとんさん』、17 - 1 ~ 3』

原) おかあさん、おかあさん／

おふとんさんは？／

あら いないの？／

訳) 엄마, 엄마 [お母さん、お母さん]／

이불이네요? [布団ちゃんは?]／

어머 없어?

[あら、いないの？(ないの?)]／

『おふとんさん』は題名でも分かるように布団を擬人化した物語である。山から連れてきた布団が汚いので母親は「帰ってもらい」たがっているが韓国語訳は「返す」と布団を物扱いしている。『おふとんさん』7ページの一行目の「쓰겠다고? [使うって?]【ッスゲッタゴ】」から母親は布団を物として認識しているとも受け取れるが、「쓰겠다고【ッスゲッタゴ】」の基本形「쓰다【ッスダ】」は日本語同様「人を働かせる」の意味も有するので、一行目は人扱いしているとも受け取れる。

しかし韓国語訳版7ページ三行目の「다시 돌려놓고 와 [元の場所に戻してきなさい]【タシトリョノコワ】」は人には用いない表現である。日本語原作『おふとんさん』は作品を通して擬人化した布団がクマと過ごす物語である。原作17ページの三行目「いない」からも母親も布団を擬人化して接していることが分かる。韓国語訳版17ページ三行目の「없어【オプソ】」であるが、韓国語は「ある／いる」は両方とも「있다【イッタ】」を、「ない／いない」も両方とも「없다【オプタ】」を区別なく使うため、17ページ三行目で母親が布団を人扱いしているのか、物扱いしているのかの判別ができない。韓国語訳版では7ページ三行目のみ布団を物扱いしていて、この訳には違和感を覚える。

絵本は他ジャンルに比べ動物や植物、無生物までもが擬人化して登場する場合が多い。子どもの想像力を育てようとする原作者の意図によるものだろう。翻訳者は原作者の意図や読者の受け止め方まで考慮して翻訳する必要があると思われる。

7・3 題名の変化と本文

これまで絵本の本文を主題として考察してきたが、本文以外の要素が本文に影響を及ぼす例があった。

例10 『『アイスのに』、11 - 1 ~ 12 - 7』

原) ああ いきかえった ぼっちゃん どう

も ありがとう。(中略)／

「ぼっちゃん おなまえは？」／

訳) 아아, 살았다. 꼬마야, 정말 고마워

[ああ、助かった。ちびちゃん、本当に

ありがとう] (中略)／

「ペンペン。みなさん、けさ／
アイスクリームパーラーの ところに
いたね」(中略)／
「かえるみちは どっちでしょうか?」／
「あるいて いくのは むりだよ。おと
うさんに／
おくって もらうといいよ。いますぐ
よんでくる」／
「すみませんね、ぼっちゃん」／

“꼬마야. 이름이 뭐야?”
〔ちびちゃん、名前はなに?〕／
“뽕뽕이야. 오늘 아침에 아이스크림 가
게에서 봤는데”
〔ペンペンだよ。今朝アイスクリーム屋
で見かけたけど〕(中略)／
“돌아가려면 어느 쪽으로 가야 해?”
〔帰るにはどの方向へ行けばいいかな〕／
“걸어가기 힘들어. 우리 아빠한테 태워
다 달라고 해. 내가 금방 불러올게”
〔歩いて帰るのは大変だよ。お父さんに
乗せてもらったら。私がすぐ呼んでく
る〕／
“고마워. 부탁할게”
〔ありがとう。お願いするね〕／

原文と訳文に言葉づかいの相違が見られる。原作のノラネコたちはペンペンに常に敬語を使い、「ぼっちゃん」と呼ぶが、韓国語版では両者が友達同士のような口の利き方をし、最終「꼬마(ちびちゃん)」と呼ぶ。これは題名に起因するものと考えられる。

原作は「ノラネコぐんだん アイスのくに」であることに対して韓国語訳題名は「아이스크림이 뽕뽕 [アイスクリームがカチカチ]」で「ノラネコぐんだん」に当たる箇所はシリーズ名の中に入っている。「아이스크림이 뽕뽕」は「우당탕탕 야옹이 [ドタバタねこ]」シリーズの5作目である。「ノラネコ」と「ドタバタねこ」では性格が違う。騒ぎは起こすが助けてくれた地元の子どもにきちんと礼を尽くす「ノラネコ」は、たとえ子ども相手でも敬語で話す。このことから「野良」は社会的身分であることが分かる。一方、「우당탕탕 야옹이 [ドタバタねこ]」は騒ぎを起こし助けてくれた子どもとすぐ友達になった。「우당탕탕 [ドタバタ]」は登場人物の性格を表す。例10の原文と訳文の相違は、シリーズの性格づけに起因したものと考えられる。つまり単純な翻訳作業の枠組みを超える要因と関わっていると言える。今回の用例収集はシリーズの一作品のみで行ったが、例10の詳細な分析のためにはシリーズ全作を対象に調査を行う必要がある。シリーズ物の性格付けが個々の作品の翻訳にも影響を与えることは、他のジャンルよりシリーズ物が多い絵本の翻訳において注目すべき点である。

8. 結び

本稿では日韓両言語間の絵本翻訳の基礎研究として、10 作品から得られた用例を提示し、日本語原作絵本の韓国語翻訳における傾向を考察した。今回収集した翻訳例は概ね自然な韓国語で過不足なく原作の内容を伝えていたが、中には明らかな誤訳例もあり、他ジャンルの翻訳には見られない翻訳例もあった。

正しい訳も誤訳も参考にした先行研究と一致する項目はわずかだった。日韓両言語間の翻訳研究として絵本を題材にする先行研究がなかったため、もっとも類似する先行研究を用いたが、正しい訳に関しては日英と日韓と比較対象とする言語が、誤訳に関しては小説と絵本と比較対象のジャンルが異なったことが、先行研究との比較を難しくした。

また、今回の用例収集を通して、絵本ならではの特徴を認識して翻訳する必要があることも確認できた。絵本の翻訳は本文以外の伝達手段である挿絵を有すること、登場人物が擬人化しやすいことも考慮しなければならない。また他ジャンルに比べシリーズ物が多いことも本文翻訳に影響を与えることが確認できた。これらのことから日韓両言語間の翻訳研究の一つとして絵本翻訳研究を続ける必要があると言えよう。

今回の用例収集は日本語原作のみにとどまったが、韓国語原作絵本の日本語訳からも用例を収集し比較を行う必要がある。また比較対象の作品数をさらに増やし考察を行う必要がある。少ないサンプルからでも有意義な翻訳例が得られたため、対象作品数を増やし、時代背景や題材の多様性を確保することで絵本翻訳についての考察を続けたい。

参考文献

1. 교보문고 (教保文庫) オンラインショップの絵本カテゴリの URL
<http://www.kyobobook.co.kr/categoryRenewal/categoryMain.laf?linkClass=410905&mallGb=KOR&orderClick=JAR>

2. 右は教保文庫による日本語原作絵本の新作の数を表にしたものである。韓国語訳されたものだけ調べた (2018 年 12 月 15 日現在、単位/冊)。
 最も多いのが 2015 年 10 月の 69 冊で、少ない月でも新作が 4 冊は出版されている。2016 年までは月毎のばらつきが目立つが、2017 年以降から平均的に 10 冊前後の安定した数字になっているのが分かる。

	2014	2015	2016	2017	2018
1 月	4	4	9	13	31
2 月	10	9	4	14	8
3 月	7	4	11	8	14
4 月	5	4	4	10	10
5 月	4	5	11	10	15
6 月	7	8	20	20	10
7 月	6	20	8	11	11
8 月	7	16	3	11	8
9 月	8	8	8	6	4
10 月	5	69	4	12	6
11 月	4	9	4	12	29
12 月	15	8	9	22	7

3. 김지은, 권희경: 그림책 관련 국내 학술지 논문의 연구동향 분석 - 2000년 이후 연구를 중심으로, 동화와 번역, 17集, pp451-479, 2009
4. 오연주, 김금희: 우리나라 그림책의 일본 번역판 연구: 표지와 저작권지를 중심으로, 어린이 문학교육 연구, 12卷2号, pp101-120, 2011
5. 大竹聖美: 한국어교육과 한국 문화의 이해 - 일본에서 번역·출판된 한국 그림책을 중심으로, 국어교육연구, 14集, pp255-277, 2004
6. 古市久子・西崎有多子: 絵本の翻訳に何が影響しているか: 日英の絵本を通して, 東邦学誌, 38卷1号 pp27-52, 2009
7. 古市久子・西崎有多子: 絵本の翻訳に何が影響しているか: 日英の絵本を通して, 東邦学誌, 38卷1号 p28, 2009
8. 2013年以前に出版されたものは韓国語訳版を重版しないなど入手が困難だった。そのために近年韓国語訳版が出版された作品に限られる。
9. 金銀英: 日本小説の韓国語訳にみられる誤訳のパターン, 福岡大学大学院論集, 36卷2号, pp1-18, 2004
10. 油谷幸利: 誤訳に基づく日韓対照研究, 言語文化, 5卷1号, pp75-92, 2002
11. 油谷幸利: 誤訳に基づく日韓対照研究<2>, 言語文化, 6卷2号, pp259-274, 2003
12. 巖基珠: 日本人母語話者の韓国語訳に現れる誤用傾向, 専修人文論集, 84, pp182, 2009